

# 英米文化学会会報

第 65 号

平成 17 年 10 月 15 日



アラバマ州セルマにあるエドモンド・ペッタス橋。キング牧師に率いられた公民権運動の闘士たちは、多くの白人の応援を得ながら、ここから州都モントゴメリーまでの五日間を歩き通した。(撮影：佐野、2005 年)

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会 第 118 回例会のお知らせ
- ◆ 学術担当より 「英米文化」論文募集（締め切り間近）
- ◆ 寄稿「悲しい添削」
- ◆ 財務からのお願い
- ◆ 事務局より 新入会員紹介・会員名簿の扱いについて

## ◆英米文化学会 第 118 回例会のお知らせ (担当: 小林弘理事)

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上、ぜひご出席下さい。

日時：平成 17 年 11 月 12 日(土) 午後 3 時～午後 6 時

午後 2 時 30 分受付開始

場所：昭和女子大学研究会館 6 F

発表会場：6 S 0 3 控え室：6 S 0 2

(半蔵門線 三軒茶屋駅下車徒歩 5 分、バス昭和女子大学前徒歩 1 分)

当日会費：100 円

懇親会：レストラン・プレリュード(人見記念講堂地下) 午後 6 時～8 時

会費：3000 円 懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

## 研究発表

### 1. 参照点の構造分析 (15:10—15:45)

発表 石川貴子 (拓殖大学)  
司会 佐藤順子 (拓殖大学)

### 2. ニューメキシコ州の先住アメリカ人に対する英語教育 (15:45—16:20)

発表 岡田吉央(慶應義塾志木高校)  
司会 原田俊明 (昭和女子大学)

————— 小休止(16:20—16:35) —————

### 3. 王政復古期の出版事情 書籍商リチャード・チズウェルの1680～1681年の出版物に関して (16:35—17:10)

発表 高野美千代(山梨県立大学)  
司会 曾村充利(法政大学)

### 4. インターネット検索・加点方式による授業法の試み (17:10—17:45)

発表 佐野潤一郎 (創価大学)  
司会 君塚淳一 (茨城大学)

## 研究発表レジュメ

### 1. 参照点の構造分析

石川貴子(拓殖大学)

日常生活の中で、言葉は特定の概念を指し示すことはコミュニケーション上、言葉の重要な伝達機能である。文によって指し示されたターゲットは何らかの手がかりをヒントにしてある経路をたどっていくことによって到達することができる。この「手がかり」に相当するものが認知言語学では参照点と呼んでいる。実際に参照点によって到達されるターゲットは、文の中で参照点から離れすぎていては適切に機能しない。そのため、ターゲットは参照点の支配領域の中に存在するものでなくてはならない。参照点とターゲットとの関係が顕著に現れる例としては、メトニミーの言語表現が挙げられる。また、構文上でも参照点の有無により、文の意味の相違が生じる。

本発表では、様々な英文例を挙げる。そうして参照点があるフレームの中での参照点の働きと、フレーム中での意味が大きな困難なく理解される場合に利用される参照点のある文例を挙げ、参照点の構造を分析する。

## 2. ニューメキシコ州の先住 アメリカ人に対する英語教育

岡田吉央 (慶應義塾志木高校)

初めに、16世紀にスペイン人が現れる前に、既に現在のアメリカ合衆国のニューメキシコ州に住みついていた、先住アメリカ人の生活を紹介する。次に、現代に至るまでのニューメキシコ州の歴史を通じて、ここに、どのような文化が生まれ、それが先住アメリカ人の生活にどのような影響を与えてきたかを考察する。その際、同時に、アメリカ合衆国政府が彼らに対して取った言語政策、特に英語教育に注目する。最後に、数人の先住アメリカ人に対して、私が実際行った、彼らが幼少の頃から受けてきた言語教育に関するインタビューを活用して、今日、彼らにたいして行われている英語教育の実態と、それが彼らの生活に与えている影響を論じる。

## 3. 王政復古期の出版事情

書籍商リチャード・チズウェルの1680～1681年の出版物に関して  
高野美千代(山梨県立大学)

王政復古期ロンドンにおける主要な書籍商のひとりであるリチャード・チズウェル (Richard Chiswel, 1640-1711) の出版物について、1680年の Gilbert Burnet 著作の *Some Accounts of the Life and Death of John Wilmot, Earl of Rochester* および 1681年の Robert Knox 著作 *An Historical Relation of the Island Ceylon, in the East-Indies* の各巻末に印刷された出版書籍リストを分析する。1668年から1709年までのロンドン書籍商による出版物は、宗教書／神学書が全体の3、4割を占め、それに続いて多く発行されたのが歴史、数学、古典、詩という分類の順となるが、この事実をふまえて、チズウェルの出版物の傾向・特徴を考察し、大火後ロンドンの社会情勢、書籍出版業の動向などとの関連を検討する。

## 4. インターネット検索・加点方式による授業法の試み

佐野潤一郎 (創価大学)

アメリカ文化紹介の学術図書をテキストとして、週一回、半期の授業を行った。168名という大人数クラスに適した講義方式を探る試みとして、テキストの各事項をインターネットで検索し、それに応じて加点・評価するという方式を採用した。学生は任意のグループ内で協力し合い、毎回の授業でテキストの指定された範囲の情報をインターネットで検索する。検索結果は、各グループから講義の前日までに教師に電子メールで報告される。教師はURLとその解説として寄せら

れた情報をインターネットで確認し、その結果に応じて加点することとした。

「英語キーワードによる検索」、「英語ホームページの読解」に加えて、「検索内容をもとにした対話」を授業の柱としたことから、一回あたりの最大加点は、個人での提出には6点、グループでの提出には8点とし、その累計のみで成績評価が行われる。学生の検索した英語ホームページは教室のスクリーンに投影され、それをもとに講義が進められる。その際に、各グループから寄せられた解釈・感想・疑問を教師が紹介し、解説を加える。本発表では、こうしたインターネット検索・加点方式の利点と問題点を考察する。

## ◆ 寄稿 「悲しい添削」

白鳥黒鳥

この夏に友人を亡くした。どうも危ない病気のようなかと心配していたら、一緒に立つ合唱団の公演の舞台に、出られないはずの友人がよろめきながら出てきた。いや、医者が行きたいなら行っていらっしやいって言ってきてね。もうだめだとそのとき思った。直るものならベッドに縛り付けてでも引き止める筈の当人が、病院を抜け出して舞台に立たせるわけがないから。

公演後にすぐに病院に見舞いに行ったが、何度目かの見舞いでラウンジにいる友人と話しているときに、先生、今の心境を詠んだ漢詩を作って、それを英訳したんだけど、添削してくれないか？と、奥様にノートブックを持って来させた。開いたノートの左ページには確かに漢詩が書いてあって、結構上手に英訳をしているのだが、右ページには、あと半年と宣告されて（分かっているけどショッキングなので正確なタイトルは思い出せない）という一文があった。添削をしながら、あー、こういうさりげない(?)別れの告げ方もあるのかと悲しかった。

友人のは漢詩でも平仄がないものだが、一応プロだから、なんとかエンディングカプレットもどきに纏めても、何をどう訳したのか覚えていない。残念。後日友人から、添削した英語をみたけど流石だと褒めてもらった。亡くなるまで勉強していた友人には頭が下がった。

## ◆編集委員会（担当：上野和子理事）から投稿募集のお知らせ

当学会の紀要『英米文化』第36号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当者上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお送りください。なお、投稿規程が平成17年2月2日付けで改定されましたので、次頁に付記します。

## 紀要『英米文化』投稿規程(平成 17 年 2 月 2 日)

### < 投稿規程 >

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

### < 執筆要項 >

1. 長さ・形式 和文論文は 12,000 から 16000 字数の間にまとめる。A4 用紙に 38 字×25 行、フォント 12 で打ち出す。英文論文も 4000 から 5000 語数を目安とし、A4 用紙に 65 字×25 行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字表記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文の Abstract をつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
  - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
  - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌 5 部と抜き刷り 50 部を進呈する。負担金は一頁につき 2500 円である。ただし、始めの 3 頁は無料とする。

以上

◆財務からのお願い（担当：山根正弘理事）

年会費（5,000円）納入がお済みでない方は、郵便振替にて振込を常時受け付けています。学会運営のためにご協力をお願いします。

口座番号：00160-7-611777

名義人：英米文化学会

なお、納入状況については、財務担当山根（MasahiroYamane@SES-online.jp）までお問い合わせ下さい。

◆事務局（担当：大東俊一理事）より新入会員・会員名簿の扱いについて

【新入会員】

齊藤 元治、 中垣 恒太郎、 中村 佳代子

・会員名簿の扱いについて

本年4月より個人情報保護法が施行され、どの学会においても会員名簿の扱いに苦慮しております。本学会におきましても理事会にて議論致しましたが、会員名簿を全会員に配布することは今年度より取りやめることに致しました。学会活動において会員各位にご不便をおかけすることがあるかと存じますが、個人情報をめぐる昨今の状況をご理解頂き、何卒ご了承願いたく存じます。

なお、例会・大会の発表者と司会者との打ち合わせ等、学会活動に際し、会員の連絡先等が必要な場合には、各担当理事までお問い合わせ下さい。双方の了解の下に必要な事項を開示することに致しております。

住所変更等に関するご連絡は、これまでどおり速やかに事務局（大東）までお届けください。年会費納入用の郵便振替用紙にて変更等をお知らせくださる会員がおられますが、会報等の発送と前後してしまい、ご迷惑をおかけすることがありますので、何卒事務局まで直接お知らせください。

英米文化学会会報 第65号 編集／発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内  
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito@SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>